

參進垂帳、諸仗稱蹕、褰帳執翳等復座、天皇還御本殿、如出御儀、執柄先賜御笏、藏人頭持之、藏人頭獻御沓、次兵庫頭起座、刀禰退鼓可令擊之、由申之、內辨宣令擊、兵庫頭召鼓師令擊之、殿下諸門鼓皆應、次外辨退出、侍從退下、次內辨退出、群臣退出、伴佐伯閉門、諸衛擊解陣鉦五下、

諸の守りのつかさ陣をとく鉦を五つ打也、うち終りて左右の衛門の座、南階の次將、近衛の大將代の陣をとき退出すると云事也、

若及昏者、主殿寮入自東西階當爐北頭炬火殿上不舉燈、略

〔嘉永元年御即位圖〕先南殿に高御座をまうけ、親王代、擬侍從、少納言、高御くらの左右に列座す、執柄の座には大宋の屏風をたつ、内辨は玉の冠をめし、休幕を出て幄に著しめ、儀式を執行ひ給ふ、外辨の公卿は承明門代より入て、異位重行に標につく、左右の大將代武禮冠に襦褌を著て東西の胡床につく、近衛の次將は束帶に桂甲を著て弓矢を帶し、南階の東西に陣し、庭上には日月象の幢いろくの鉦をたてならべ、天皇禮服を著御ありて、後房より出御なり、御座定りて執翳の女孺翳をもつて龍顔をおほひ奉る、劔璽の内侍二人、褰帳の命婦二人前後に候す、兵庫寮鉦をうつの後、命婦すゝんで御帳をかゝぐ、女孺翳をふすれば宸儀はじめて見えさせたまふ、典儀かへり見て再拜を稱す、贊者承り傳ふ、群臣再拜す、宣命使版に著て制旨をのぶれば、おのゝ再拜舞踏す、武官の輩旗をふつて萬歳を稱ふ、主殿圖書の兩寮火爐のもとに行て、主殿生火し、圖書香をたく、是位につかせ給ふ事を天につぐるよしなり、擬侍從すゝんで大禮ことをはりぬるよしを奏す、兵庫寮鉦をならす、女孺翳を捧ぐ、命婦すゝんで御帳をたる、天子入御まします、誠に嚴なる御事どもにぞ、かしく、